

## 第2章 志教育実践事例

### 1 小学校編

- ◇ 教科にかかわる実践事例 ..... 1
- ◇ 領域にかかわる実践事例 ..... 1 1
- ◇ 教科・領域にかかわる実践事例 ..... 3 3
- ◇ その他の教育活動にかかわる実践事例 ..... 3 6
- ◇ 特別支援学級における実践事例 ..... 4 0

## 教科にかかわる実践事例

大崎市立志田小学校

### 実践名：「電車・バスに乗って駅へ行こう」

教科：生活（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月17日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もどめる**）はたす

- ・ 公共の施設等で働く人や公共の乗り物（電車・バス）を利用している人々と積極的にかかわり、人とかかわることのよさを感じる。（かかわる）
- ・ 公共の施設等や公共の乗り物の役割、そこで働く人の仕事について知る。（もどめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

生活科「みんなで行こうよ使おうよ」

#### 1 志田中部地区公民館・熊野神社

学校近くの志田地区の公民館や熊野神社を見学させていただき、公民館が地区の人々にとって憩いの場であり、みんなで集まって楽しんだり学んだりする場であることを知る。また熊野神社はこの近くの人々が訪れて参拝したり、散歩や会話をしたりしている場所がある。そのような場所を、自分たちはどのように利用し

たらよいか、話し合う。

#### 2 JR古川駅・西古川駅前郵便局

行く時は、学校前の「飯川停留所」から宮城交通バスを利用して古川駅まで行く。古川駅では、まず構内に乗る陸羽東線の「古川ー西古川」間の切符を駅員さんに教えていただきながら自動券売機で購入する。その後、駅構内を見学し、新幹線ホームで時速320kmで通過する新幹線「はやぶさ」を見てから質問する。古川駅から西古川駅までは陸羽東線の電車に乗って行き、西古川駅前郵便局を見学し、宮城交通のバスで飯川バス停まで帰ってくる。

#### 3 分かったことを新聞にまとめ、お礼の手紙を書く。

この体験で分かったことや感じたことをまとめ、壁新聞にして掲示する。3学期には、これを用いて一年生に発表する。また駅員さんや郵便局の方へお礼の手紙を書く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 乗用車で移動することが多い子どもたちに、公共のバスや電車には自分たちの他にもお客さんが乗っていることに気付かせたい。そして、どのように利用すればよいか考えさせる。また公共の乗り物があることで、学校や病院、仕事や買い物に行くことができる人々がいることも、周囲のお客さんたちの様子を見ることで気付かせていく。



◎ 実践を振り返って

**成果** 実際に公共のバスや電車に乗って移動したことが、初めての体験だった児童もいて、駅見学と乗車体験を結び付けて理解できたことが良かった。西古川駅前郵便局では、郵便物にスタンプを付くところを見ることができた。

**課題** 電車・バスの時刻の関係で、西古川駅前郵便局を見学する時間が20分しかなかったため、あまり仕事をしている場面を見ることはできなかった。



## 実践名：「消防署を見学しよう」

教科：社会（４年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成26年4月22日
- ◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もどめる**・**はたす**）
- ・ 消防署を見学し、消防署で働いている人に質問したり、体験活動をしたりする。（かかわる）
  - ・ 消防署の重要性を考えたり、職業として消防士の仕事について考えたりする。（もどめる）
  - ・ 家の中や地域の中での自分の行動について振り返る。（はたす）
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ
- 1 消防署見学について学習計画を立てる。
    - ・ 教科書等で学習した内容について、どんな所を見学して、どんなことを学んできたか、学習計画を立てる。
  - 2 古川消防署を見学する。
    - ・ 消防署に行き、見学したり質問したりして消防署の仕事について調べる。
  - 3 消防署見学で分かったことをまとめる。
    - ・ 発見したこと、分かったこと、驚いたことなどを新聞形式にまとめる。
- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
- ・ 事前に質問事項を考えさせ、打合わせの段階で消防署の方にお知らせしていたために、児童が知りたいと思っていたことを盛り込んで話を聞かせていただいた。
  - ・ 見学の時間帯と実際の訓練の時間帯が重なっていたために訓練の様子も見せていただくことができた。



◎ 実践を振り返って

**成果** 消防署で働く人たちの声を直接聞き、消防署の仕事の大切さを知ることができた。また、実際の訓練の様子を見て、ふだんから火事に備えていることを知ることができた。

消火栓や防火水槽が町の中にある、火災から安全を守るための工夫を知ることができた。

**課題** 消防署の見学や消防署に行くまでの町の中にある消火栓や防火水槽を見ることで、全員が共通体験をもつことができたが、地域の中にある消防施設や活動について広めたり深めたりすることが難しかった。

## 実践名：「どきどきわくわくまちたんけん」

教科：生活（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年6月20日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 地域の人たちと積極的にかかわりを深め、地域への愛着を深める。（かかわる）
- ・ 地域のよさを見つけ、工夫して伝え合う。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 まちのことはなそう

- ・ 自分のお気に入りの場所や興味のあること、知っていること、不思議なことなど、自分と地域とのかかわりを紹介し合う。
- ・ もっと知りたいことや見たいことを話し合う。

2 まちたんけんの計画を立てよう

- ・ 行きたい場所を決め、グループに分かれる。
- ・ 友達と安全に気を付けて探検に行くためのルールやマナーを話し合う。
- ・ 探検する道路や持ち物などを話し合い、見つけたいものや聞きたいことなどを確認し、「たんけんカード」に書く。

3 まちたんけんに行こう

- ・ グループごとに、計画に沿って探検する。
- ・ 地域にあるものや人、場所とかかわる。
- ・ 見つけたものや人、聞いたり気付いたりしたことなどを友達や先生に伝えたり、記録カードに書いたりする。

4 まちのこをつたえよう

- ・ 町探検で見つけたことをグループごとに振り返り、みんなに伝えたいことを決める。
- ・ 内容に適した表現方法を考え、伝えたい内容をまとめ、伝え合う準備をする。
- ・ 自分たちが新たに見つけたことや、解決したふしぎを友達と伝え合い、まちの情報を共有する。
- ・ 町探検でお世話になった方にお礼の手紙を書く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 地域の方とのかかわりや地域への愛着を深めさせるために、探検で訪れる店に事前に探検の意図を伝え協力をお願いしたり、地域の方との接し方を事前に練習させたり、町探検後にお礼の手紙を書かせたりするなど、場の設定や振り返りの手法を工夫した。

◎ 実践を振り返って

**成果** 自分達が興味をもった場所やお店に探検に行くことにより、どの児童も意欲をもって活動に取り組むことができた。また、事前に店の方に協力を依頼したり、児童にかかわり方の練習をさせたりしたことで交流がスムーズで充実したものとなり、地域への関心と愛着を深めることができた。それがまとめやお礼の手紙にも表れていた。

**課題** 今回の学習を通し、深まった地域への関心や愛着をいかに持続させたり、どう発展させたりしていくのが今後の課題である。

**その他** いくつかのグループに分かれての町探検では、安全を確保するために引率者の数が必要であるが、小規模校では教員だけの引率は難しく、今回は保護者の協力をいただいた。



## 教科にかかわる実践事例 大崎市立川渡小学校

### 実践名：「もっと なかよし まちたんけん」

教科：生活（２年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年12月9日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・様々な人とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を深化させる。（かかわる）
- ・学校で学ぶ知識と社会や職業との関連を実感させ、学習意欲を高める。（もとめる）
- ・集団や組織の中で自分の果たすべき役割を認識させ、自己有用感を高める。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 前時の探検やその振り返りをもとに、再度探検したい場所を決め、グループごとに計画を立て、準備をする。

- ・沼倉旅館，原野こけし，かが屋グループ
- ・玉造荘，パーバーさいとうグループ
- ・山田商店，遠藤屋，菅原魚店グループ
- ・楓林グループ

2 地域の人にインタビューしたり、一緒にできることをしたりする。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・インタビューの内容や、地域の人と一緒にしたいことが焦点化されるようなグループ分けを行う。
- ・要領よく計画を立てられるよう、これまでの探検の経験を生かすことを助言する。
- ・安全面には十分に配慮する。また、帰校時のうがい、手洗いなど、衛生面の指導を徹底する。

◎ 実践を振り返って

**成果** ・児童は、地域の人々や商店に興味をもち、進んでかかわることができた。  
・インタビューの内容や調べたことのまとめ方を、グループごとに工夫することができた。

**課題** ・開いていない商店などがあったので、探検の時期や時間をより詳しく検討する必要がある。

**その他** ・前単元「みんなでいこうよつかおうよ」で地域の公共施設訪問をしていたことで、本単元に対する意欲が高まった。

## 実践名：「自然となかよし」

教科：生活（１・２年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年4月14日～11月

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 校庭の樹木や植物など身近な自然を観察することで四季の変化に気付かせる。（かかわる）
- ・ 自然とのかかわりに関心をもち、自然の素晴らしさや自然を大切にすることを育む。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 校庭の「木」や「草花」に触れてみよう。
  - ・ どんな「木」や「草花」あるのか観察し、タブレットPCで写真を撮る。
- 2 「木」や「草花」の名前を調べよう。
  - ・ タブレットPCの写真をもとに、樹木図鑑や植物図鑑で調べる。
- 3 もっと知りたいことを話し合う。
  - ・ 「春・夏・秋」ごとに写真を撮り、成長の様子や変化について記録していく。
- 4 学級園（畑）で見つけた実を調べよう。
  - ・ 何の実なのか触ったり、においをかいだり、切ってみたりしながら想像をふくらませる。その後、図鑑やインターネットで調べながら確認させる。
- 5 木の实や落ち葉などをつかって作ろう。
  - ・ 木の实や落ち葉などをつかって制作活動をし、自然や季節を感じ取る。
- 6 発見したことを伝えよう＜学習参観＞
  - ・ ICTを活用し、各自が発見したことを写真や言葉にまとめ、分かりやすく伝える工夫をする。
  - ・ 保護者や学習でお世話になった地域の方々を招き、学習の成果を発表する。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 身近な自然に触れさせることで、日常生活では見過ごしている自然の素晴らしさや不思議さに気付かせるとともに、ふるさと鬼首の季節の移り変わりを味わわせていくようにする。
- ・ 校庭の「樹木」や「草花」などの名前を知り、その成長や変化に気付かせながら感心を高めしていく。

◎ 実践を振り返って

**成果** 学校の敷地内で発見した自然に触れながら、自然豊かな地域のよさを実感し、郷土を愛する気持ちを高めることができた。

**課題** 季節の移り変わりごとにタブレットPCで写真を撮り記録していたが、自分の木や植物をあらかじめ決め活動させればよかった。「春」「夏」「秋」と関連性がある方がまとめやすかったのではないかと思う。



## 教科にかかわる実践事例

潘谷町立潘谷第一小学校

### 実践名：「もうすぐ2年生」（幼保小交流会）

教科：生活（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成27年1月21日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**）もとめる（**はたす**）

- ・ 園児と仲良く遊んだりお世話をしたりすることができる。（かかわる）
- ・ 与えられた役割を最後までやり通すことができる。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 お迎えの会をする。
  - ・ 園児を温かく迎えるように明るく元気にあいさつをする。
  - ・ 活動の予定について説明する。
- 2 学校生活について発表する。
  - ・ 教科書やノートを見せたり、ランドセルや用具のしまい方を説明したりする。
  - ・ 学校生活に関する質問を受け、分かりやすく答える。
- 3 ゲームをして仲良く遊ぶ。
  - ・ 室内で園児と仲良く遊べると考えたゲームをする。
- 4 お別れ会をする。
  - ・ 1年生からメッセージとプレゼントをおくる。
- 5 校内を案内し、お見送りをする。
  - ・ 教室や廊下の歩き方の約束を教えながら案内する。
  - ・ お別れのあいさつをし、みんなでお見送りをする。
- 6 活動の「ふりかえり」をする。



【園児とのお別れの会】

～児童の「ふりかえり」の内容～

- ・ わたしは、YちゃんとMちゃんといっしょにあるきました。たのしそうにしていました。「4月、まってね」といったら「うん。」とってくれました。たのしいおもいででした。また、いっしょにあそびたいとおもいました。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 児童に満足感や達成感をもたせるためにも、事前・事後指導を充実させる。特に、事後指導では活動の「ふりかえり」を生かして、認め合うことで「やりとげた」という自信をもたせていく。

◎ 実践を振り返って

- 成果：**・ これまで上級生に自分たちがお世話をしてもらったことを思い出し、生かしながら園児に進んでかかわる姿が見られた。
- ・ 活動後に書いた「ふりかえりシート」には、喜んで活動する園児の姿に満足感と達成感をもつことができたという内容が多かった。
  - ・ 「ふりかえり」発表会を行い、友達の感想を交流し合うことで、自分の思いや考えを重ね合わせたり整理したりすることができ、新たな活動の意欲の向上につながった。

- 課題：**・ 児童と園児のペアを作って活動を進めていけば、さらに一人一人を生かす場面をもつことができたように思う。

- その他：**・ 保護者へのお便りを通して活動の様子を知らせたことで、学校だけでなく家庭からもほめてもらったことが、児童の自信につながった。

## 教科にかかわる実践事例

浦谷町立浦谷第一小学校

### 実践名：「世界の民話を読もう」（木かげにごろり）

教科：国語（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月18日～12月3日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**）はたす

- ・ ブックマイスター（ゲスト）や世界の民話との出会いによって、民話のおもしろさや読書の楽しさに気付く。（かかわる）
- ・ 民話に関心をもち、世界の様々な民話を読み広げようとする意欲を育てる。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1（第一次）民話について知り、いろいろな民話の面白さを読み味わうという単元の目標をつかむ。

- ・ ブックマイスター（ゲストの方）に本を紹介してもらい、読書活動や本単元の学習に意欲をもつ。

2（第二次）叙述を基に、場面の構成や地主とお百姓の気持ちの変化を読み取りながら作品の面白さについて考える。

- ・ 起承転結、時や場の設定などを捉えながら、地主とお百姓の関係を読み取る。
- ・ 物語の進行とともに変化する部分と変化せずに繰り返されている部分を読み取る。
- ・ 積み重ねた「ふりかえり」を生かし作品の面白さについて話し合うとともに他の民話との共通点を知り読書への意欲をもつ。
- ・ ブックマイスターに民話の面白さに気付いたことを認めてもらう。



【ブックマイスターによる本の紹介】

3（第三次）いろいろな民話を読み（並行読書を含む）、民話の面白さを伝える紹介カードを作成する。

- ・ 第二次までの学びを生かしながらいろいろな民話を読む。
- ・ 読んだ中から「おすすめの民話」を選び、面白さを伝える紹介カードを作成する。
- ・ 紹介カードを基にし、面白い民話の発表を行い、新たな読書意欲の喚起につなげる。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 教材文の学習と並行して、読書活動に取り組みさせる手立てとして、単元の導入時にブックマイスターを招き、読み聞かせによる本の紹介を行うと共に、読書に対する思いを伝えてもらう。
- ・ 単元を通して、民話を読もうとする学習意欲を継続させるために、単元の導入時に、身近な職員が紹介カードを基に民話を紹介する場を設定する。
- ・ 単元の目標に合った多くの民話と関わらせるために教室内にミニ図書コーナーを作る。
- ・ 教材文で物語文を読むためのポイントやおもしろさを見つけながら読み進める学習を行い、第三次の読書活動で学んだことを活用できるようにさせる。

◎ 実践を振り返って

**成果**： 導入時の工夫と、単元の目標に合わせた選書により、これまでの偏った読書傾向から民話の本を積極的に読み味わうことができた。ブックマイスターの読書に対する姿勢や楽しみ方に出会うことで、「自分も多くの本を読みたい」などの目標をもつ児童の姿が見られた。また、第一、第二次で物語の読み方の基本となる要素を身に付けさせたことで、学んだことを活用しながら読書活動に取り組もうとする児童の意欲が「ふりかえり」や態度から見取ることができた。

**課題**： 児童の読書意欲向上の一助として、図書室の整備が必要である。新書の購入や公的図書館の利用によって効果を上げることができたので、工夫して継続させていきたい。多くの児童が単元のねらいの達成を実感し、音読や読み取り、紹介文を書くなどの意欲を向上させることができたが、確かな力をさらに付けさせるために、積み重ねと継続を意識していきたい。



## 教科にかかわる実践事例

浦谷町立月将館小学校

### 実践名：「警察の仕事」

教科：社会（４年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年5月27日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる **もとめる** はたす）

- ・ 事故や事件から人々の安全を守るための関係機関の働きやそこに従事している人々、地域の人々の工夫や努力を理解する。（もとめる）
- ・ 県警本部を見学することで警察の仕事に対する理解を深め、職業の1つとして興味・関心をもたせる。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 事故や事件から安全を守るしくみや働きに関心をもつ。
- 2 事故現場では、いろいろな人がそれぞれ異なる働きをしていることを知る。
- 3 どのような自転車のきまりができたのか調べる。
- 4 警察の仕事調べる。
  - (1) 県警察本部を見学することを知り、調べたいことや質問を考える。
  - (2) 宮城県警察本部見学（遠足）
    - ・ 社会科の学習として、行政や警察署の働きとそこに従事している人々の工夫や努力への理解を深め、各施設へ関心をもって自主的に調べることができるようにする。
    - ・ 校外における集団活動を通して、教師と児童、児童相互の人間的なふれあいを深め、楽しい思い出をつくる。
    - ・ 集団活動を通して、基本的な生活習慣や公衆道徳などの体験を積み、互いに思いやる人間関係を築く態度を育てる。
  - (3) 本時の課題を知る。
    - ・ 警察の仕事について調べてわかったことを整理することを知る。
  - (4) 警察の仕事整理する。
    - ・ 警察の仕事について調べてわかったことを整理させることで、役割の重要性に気付かせる。「どこで（場所）」「どんな（仕事）」「思ったこと・気付いたこと」
  - (5) 地域の警察官の仕事整理する。
    - ・ 警察の人たちは、わたしたちの生活の安全を守るために、地域社会の中でいろいろな活動をしていることに気付かせる。「どこで（場所）」「どんな（仕事）」「思ったこと・気付いたこと」
  - (6) 調べてわかったことを話し合う。
- 5 地域社会の人々の活動について調べる。
- 6 町の安全を守るために、自分たちができることを考える。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 地域の人々の工夫や努力を理解させるため、事故や事件から人々の安全を守るための関係機関の写真や資料を提示する。
- ・ 警察の仕事に対する理解を深め、職業の1つとして興味・関心をもたせるため、写真や資料を提示するとともに、県警本部を見学する。

◎ 実践を振り返って

**成果** 警察の仕事について調べてわかったことについて整理させることで、警察の役割の重要性に気付かせるとともに仕事に関心をもたせることができた。

実際に県警本部を見学し、仕事の様子を見たり聞いたりすることで職業の1つとして興味をもたせることができた。

警察の人たちの地域社会の中での活動を調べさせることで、地域の中で自分たちにもできることがあることに気付かせることができた。

**課題** 仕事の内容で難しい点もあったので、発達段階に応じた補足の説明が必要であった。

**その他** 安全な町づくりのため、地域の人たちも大きくかかわっていることを学習することで、将来自分も地域社会の一員として参画しようとする意識をもたせることができた。

## 教科にかかわる実践事例

美里町立小牛田小学校

### 実践名：「学校の良さを宣伝しよう」

教科：国語（6年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成26年5月30日
- ◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**）もとめる・はたす
  - ・学校のよさを様々な場面で紹介できるようにする。（かかわる）
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ
  - ・6年生になると、学校の代表として校外の方に学校について話す機会が多くなるので練習をすることを伝える。
  - 1 学校の特徴をカードに書く。
    - ・グループで、学校の特徴をできるだけ多く挙げる。
    - ・自慢できると思う特徴には「○カード」に、自慢しにくいと思う特徴は「△カード」として書きだす。
  - 2 カードを引く。
    - ・2種類のカードをふせて、1人1枚ずつカードを引く。
  - 3 引いた例に合わせて具体例を考える。
    - ・「○カード」についてはその特徴がよく分かる具体例を考え、「△カード」については、見方を変えて、よいと思う特徴になるように考えて書く。
  - 4 キャッチフレーズを考える。
    - ・二つのよい特徴を使ってキャッチフレーズを作る。
  - 5 学校のよさを宣伝する。
    - ・学校の特徴と具体例、キャッチフレーズなどを取り入れて、順番に学校のよさを伝える話をする。
- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
  - ・4月にお迎えの言葉で代表児童が発表したことを想起させ、「自分が『○○』の場面で発表することになりました。」という意識で考えさせるようにした。

#### ◎ 実践を振り返って

##### 成果

- ・今まで不便だと思っていたことも見方を変えるとそんなとらえ方もできるのかという思いを子どもたちがもつことができた。修学旅行や校外学習などの学校紹介の機会などでも学校のよさを紹介することができた。

##### 課題

- ・学校紹介以外でも、自己紹介や他己紹介などの機会を設け、継続的に何かを紹介する機会を設けることが大切だと感じた。



## 教科にかかわる実践事例

美里町立北浦小学校

### 実践名：「おもちゃランドをひらいたよ」

教科：生活(2年)

◎ 実施期日(期間) 平成26年10月29日

◎ 志教育にかかわるねらい(かかわる)もとめる(はたす)

- ・ 1年生と一緒に活動を楽しむことを通して、仲を深めることができる。(かかわる)
- ・ おもちゃランドの活動を通して喜びや達成感を味わわせ、上級生としてできることをさらに増やしていこうとする意欲を高める。(はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 おもちゃを使った遊びを考えて、準備をする

- ・ 遊びに必要なものや、1年生にあげるプレゼントを作る。
- ・ 遊び方を説明するポスターを作り、説明の仕方を練習する。
- ・ プレおもちゃランド(2年生で実施)を開き、その後、遊びや遊び方の説明などを見直す。

2 おもちゃランドを開く

- ・ 1年生の教室でグループごとに遊びの説明をする。
- ・ 1年生をおもちゃランドに招待する。

3 活動を振り返る

- ・ 上級生としてできるようになったことを発表する。
- ・ 1年生からもらったお手紙を読む。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 昨年度自分たちがおもちゃランドに招待してもらったことを思い出させ、自分たちも招待したいという意欲をもたせる。
- ・ 遊びや遊び方の説明を考えさせる前に、「おもちゃランドに来た1年生が『楽しくないなあ』と思う時ってどんな時だろう。」と発問することで、1年生の目線に立たせるようにする。その上で、おもちゃの工夫やそれを使った遊び、分かりやすい遊び方の説明を考えさせる。
- ・ 振り返りで、お兄さんお姉さんとしてできるようになったことを共有することで、「お兄さんお姉さんとしてもっと何かしてあげたい」という次時への意欲をもたせる。



◎ 実践を振り返って

**成果**

振り返りの中で、児童から「1年生と前よりも話せるようになったよ。」や「また1年生を招待して何か楽しいことをしたいなあ。」という感想が多く聞かれた。ねらいを達成することができたと思う。

**その他**

今回は1年生を招待したが、幼稚園児や地域のお年寄り方などを招待することで、児童の人間関係を学校の外に広げていくことも考えられる。今後検討したい。

## 実践名：「幼稚園のお友達と収穫祭をしよう」

領域：総合的な学習の時間（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年9月22日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる** **はたす** **もとめる**）

- ・ にじの子幼稚園の子どもたちに、自分たちが調べたことをわかりやすく教える。（かかわる）
- ・ にじの子幼稚園の子どもたちと仲良く活動しようという気持ちを育てる。（もとめる）
- ・ 司会や枝豆のプレゼントなどの自分の担当する仕事をしっかりと行う。（はたす）



◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 交流会の内容を知り、準備をする。

- ・ 交流会の内容を知り、自分の調べたことをにじの子幼稚園児に伝わりやすくするための絵を描いたり、クイズを考えたりする。
- ・ 自分の担当する仕事を決める。

2 自分の調べたことを交流会で分かりやすく伝える。

- ・ クイズや紙芝居などで自分の調べたことを分かりやすく伝える。
- ・ 質問タイムをとり、幼稚園児が疑問に思ったことに対して詳しく伝える。

3 交流会を振り返り、感想を書く。

- ・ 自分たちが調べたことを分かりやすく伝えることができたか考える。
- ・ 自分が担当する仕事をしっかりと行うことができたか振り返る。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 自分たちが調べたことをそのまま紹介するのではなく、幼稚園児に分かりやすく、楽しく伝えるにはどのようにしたらよいか、それに向けてアドバイスをしたり支援したりする。

◎ 実践を振り返って

**成果**

事前に○×クイズは手を挙げさせるだけではなく、移動して楽しめるようにと子どもたち自身で考えることができていた。また、事前に質問が伝えられていたわけではなく、子どもたちはその場で考えることになったが、理科や総合で学習してきたことを基に、幼稚園児に伝わるように一生懸命考え、答えることができていた。

**課題**

にじの子幼稚園児とかかわっていく中で、発表中に言葉が詰まってしまった児童に対して少し笑い声が聞こえる部分があり、その反応に対して傷ついてしまう児童がいた。教師側で事前に幼稚園児に伝えておく必要があったと感じる。



## 実践名：「飯川獅子を学び・舞う」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年10月4日～11月23日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もどめる**・**はたす**）

- ・ 飯川獅子舞保存会の方の獅子舞に対する思いを知り、舞を覚え、自分たちも舞ってみようとする意欲をはぐくむ。（かかわる）
- ・ 飯川獅子舞の歴史について知り、この獅子舞の伝統が途絶えないようにするには、どうすればよいのかを考え、実行する力を養う。（もどめる）
- ・ 地域の伝統を受け継ぎ、伝えていこうとする意欲・態度を養う。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 飯川獅子舞について知る。

- ・ 熊野神社に行って、飯川獅子舞の由来・歴史について説明を聞く。
- ・ 実際に保存会の方々の獅子舞を見せてもらったり、獅子頭を持ってみたりして、その重みを感じとる。

2 獅子舞を踊る計画を立て、練習をする。（太鼓、前後の舞）

- ・ 自分たちで話し合っ、獅子舞を踊る練習の計画を立てる。
- ・ 獅子舞保存会の方々の指導で舞の練習をする。
- ・ 獅子舞を披露する準備をする。

3 志田っ子祭で飯川獅子舞を披露する。

- ・ 「はじめのつどい」「おわりのつどい」で保護者や地区のみなさん、全校児童に舞を披露する。

4 今後、どのように伝えていくか話し合う。（2月へ）



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 自分たちの地域にも誇れる伝統があることを知り、それを将来に伝えていけるかどうかは自分たち次第であることを自覚し、どのようにして伝えていきたいかを話し合えるような学習の流れにしていく。
- ・ 今年度は、熊野神社の鐘樓堂の竣工祭（11/23）で、志田小6年生が獅子舞を舞う機会を得る。その竣工祭での様子を参加できなかった友達にも伝え、地域の方々と触れ合いかわり合うことのよさを感じとらせたい。

◎ 実践を振り返って

**成果** 飯川獅子舞の練習を通して、保存会の方々の伝統を伝えていきたいという思いの強さを感じることができた。また、実際に獅子舞を舞うことで、この伝統を引き継いでいきたいという気持ちをもつことができた。

学芸会の後、志田っ子祭まで時間があまりなく練習に十分な時間が取れなかったが、全校児童・保護者・地域の方々に、自分たちが伝統を引き継いだ姿を披露することができ、その心も伝えることができた。

**課題** 一学期の「岩手・盛岡の歴史・伝統」の学習に引き続き、「大崎・志田の歴史・伝統」の学習につなげて行えるように計画を立てたい。

## 実践名：「持続可能な社会のために 清掃工場見学」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月5日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 自分たちが住んでいる大崎市に、地球環境に役立つ取り組みをしている企業があることを知り、その取組について知り、そのよさに気付く。（かかわる）
- ・ 実際に BDF（バイオディーゼル燃料）を作っている場面を見たり、BDF で動くカートに試乗体験したりし、バイオマスエネルギーについて知識を深める。（もとめる）
- ・ 振り返りで BDF はなぜ必要なのかを考えさせ、地球環境を大切にしていくために自分たちができることを考え、どう実践していくかを話し合う。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 持続可能な社会について考える

- ・ 今までの環境に関する学習から、持続可能な社会づくりを進めていくことの大切さが分かった。そこで、大崎市内にバイオマスエネルギーを作っている千田清掃があることが分かり、見学に行く計画を立てる。

2 千田清掃を見学する

- ・ 千田清掃に行き、会社としての取り組みや BDF の製造法や利用状況などを質問したり、体験したりする。

3 千田清掃で分かったことをまとめる

- ・ 千田清掃の取組を通して持続可能な社会づくりを進めていくことの大切さをまとめる。

4 児童会での話し合いをもつ

- ・ 見学後、千田清掃見学で学んだことから自分たちができることについて話し合う。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 持続可能な社会づくりを進めていくことの大切さを十分に理解させてから、千田清掃へのお見学計画を立てながら、BDF についていろいろな質問を考えさせる。
- ・ BDF で走るゴーカートに実際に試乗し、利用法について実感する。

◎ 実践を振り返って

**成果**

- ・ 廃油を利用し BDF を作ったり、太陽光を利用したエネルギーを作ったりと持続可能な社会づくりを意識した企業から、いろいろな情報を得ることができ大変勉強になった。ここでの学びを基に一人一人が持続可能な社会づくりを進めることの重要性が分かった。
- ・ 見学後の話し合いで、自分たちも BDF を作るための廃油を集めたり、菜の花を育てたりすることができるのではないかということになり、児童会で取り組むことを代表委員会で提案した。その結果、学校全体で廃油回収を始めることができた。学習したことから実践につながったことから、よい体験学習だったと言える。

**課題**

- ・ BDF の製造法の説明の時に、専門用語が多く、小学生には少々難しかったので、事前に講師と打合せをし、ある程度伝えておくとうよかった。



## 領域にかかわる実践事例 大崎市立宮沢小学校

### 実践名：「先輩の話を聞く会」を生かし、 愛校心の価値を高める道徳指導

領域：道徳（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年6月12日、10月8日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・**もとめる** **はたす**

- ・ 集団の一員として学校のために自分の役割を果たそうとする意欲を高める。（かかわる、はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

○ 「先輩の話を聞く会」の実践について

日時 平成26年6月12日（木）

講師 本校卒業生 オペラ歌手 喜久間 あやさん

対象 5・6年児童

場所 本校 わかばホール

内容 喜久間あやさんの小学生時代の夢やオペラ歌手を目指すきっかけ等をフリートーク形式でお話していただく。



○ 道徳「愛校心せんばいの心を引きついで」の指導

日時 平成26年10月8日（水）3校時目

主題名 よりよい校風「愛校心」

ねらい 最上級生としての役割を自覚し、学校に愛着をもち、進んでりっぱな学校をつくらうとする態度を養う。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

東京でオペラ歌手として活躍している本校卒業生の喜久間

あやさんが、自分のふるさどである宮城県が東日本大震災で被災し、支援できないことがないかという思いから、「オペラを聴く会」を開催し、児童に歌を披露してくれた。その後、喜久間さんの本校に対する思いや後輩に対する思いを「先輩の話を聞く会」で話していただいた。そこから、10月の道徳につなげ、自分たちが最上級生としてできることを考えさせた。また、授業の終末では喜久間さんからの6年生に対するメッセージを読み上げ、本校に対する愛校心を築くための意欲付けを図った。

◎ 実践を振り返って

**成果** 本校卒業生からの「先輩の話を聞く会」を催したことにより、児童は身近なこととして愛校心の価値をとらえることにつながった。また、自分たちも喜久間さんのように学校を卒業しても自分の学校に誇りをもてるような卒業生になりたいという意欲を培うことにつながった。

**課題** 今回の授業では、卒業生とのつながりを道徳に生かしていくことで効果的に価値目標にせまることができ、また志教育との関連を見いだすことができた。今後もこのようなつながりを持ち、意図的に学習活動に生かしていくことが必要であると思う。

実践名：「たてわり活動」

領域：学校行事、児童会等（全学年）

- ◎ 実施期間 平成26年4月～平成27年3月
- ◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる・もどめる・はたす**
- ・ 異年齢集団として児童が交流・活動することにより、協力や励まし合いの大切さを実感させ、自主的で実践的な態度を育てる。（かかわる、はたす）
  - ・ リーダーとして下級生をまとめたり、下級生が上級生の親切に感謝したり、あこがれたりする。（もどめる）
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ
- 1 班編制について
    - ・ 走力のバランスを考慮し全校を6班に編制し、2年おきに再編制する。
  - 2 実施時数について（児童会活動8時間、学校行事…運動会、その他…業間、給食等）
    - ① 児童会活動
      - たてわり活動④（顔合わせの会、ふれあいの会、作って遊ぼう会、まとめの会）
      - なわとび大会②（たてわり班対抗大縄跳び大会）
      - 6年生を送る会②（1hは、準備や会場装飾の時間）  
※6年生のプレゼント（縦割り班下級生からの寄せ書き色紙）
    - ② 学校行事…運動会（約2h）
      - 全校たてわりリレー、応援合戦（たてわり班を赤白に統合）
    - ③ 業間（毎週金曜日…特別時程で40分の業間時間を設定）
      - リレー練習、ドッジビー、ドッジボール、室内遊び等（1学期）
      - なわとび練習（2～3学期）
    - ④ 給食時間
      - たてわり給食（年1回） ※交流給食（2学年交流：年2回）
- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
- 6年生がリーダーとなり、班担当教員と相談しながら活動を計画・実践する。

◎ 実践を振り返って

- 成果** 上級生（特に6年生）のリーダーシップを発揮する機会が多くあり、準備や練習の困難を克服して行事をやり通した充実感、達成感を味わうことができた。  
下級生は、体験や上級生とのかかわりあいを通して、活動の楽しさや上級生への感謝の念をもつことができた。
- 課題** 特設している金曜日の拡大業間は、その他の学校行事や校内事情により毎週の実施は難しかった。  
計画や準備にかかる上級生、特に6年生や6年担任、たてわり担当者の負担が大きい。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立敷五小学校

### 実践名：「いのちを学ぶ」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年9月30日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・はたす）

- ・ 名取市閉上地区を訪問し、被災地の今を自分の目で確かめるとともに、「語り継ぐ会」の方々とのふれあいを通し、被災地・被災者に寄り添う気持ちを育てる。  
(かかわる)
- ・ 現場での体験を生かし、自他のいのちを大切にしようとする気持ちを深める。  
(もとめる)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

#### 1 「閉上の記憶」の見学

- ・ 「閉上の記憶」設立の経緯を聞いたり、所内の展示物を見学したりする。
- ・ 震災前と震災後の閉上地区について映像等を基にとらえる。
- ・ 閉上地区の子どもたちが震災時に目にしたものを表した粘土の作品を鑑賞する。
- ・ 閉上地区の子どもたちが描いた「未来の閉上地区」を鑑賞する。

#### 2 閉上中学校の視察

- ・ 閉上中学校付近に残された震災当時のままの家屋や津波で折れ曲がった歩道の鉄柵の様子を観察する。
- ・ 閉上中学校の校舎前の慰霊碑に込められた遺族の方の思いや名前を刻まれた中学生の無念に思いをはせる。
- ・ 実際に校舎に入り、当時のままの姿を残す教室などを見学し震災直後の様子を知る。

#### 3 閉上の街並み跡の視察

- ・ 何もなくなってしまった閉上地区商店街をバスで回りながら、当時の建物の様子やにぎわいの様子を知る。
- ・ 日和山（小高い丘）から閉上地区を一望する。

#### 4 ワークショップ「失われた時を求めて」

- ・ 4名ずつのグループに分かれ、指令所と当時の地図を手掛かりに「時のカプセル」を探す。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

今回は「語り継ぐ会」から提供されたDVD映像（津波の様子等）を事前に見た上で参加した。活動の意欲付けの面で重要なポイントとなった。

◎ 実践を振り返って

**成果** 自分たちも経験した東日本大震災であるが、沿岸部の甚大な被害については新聞やテレビを通して知ることが多い。実際に被害を受けた地区を訪れ、遺族会の方の話を直接聞くことで、命の重さ・大切さ・尊さを肌で感じる事ができた。

**課題** 今回は、文科省の委託事業ということで交通費等は文科省にすべて負担していただいた。被災地訪問は、こうした後押しがあって実現できる事業なので今後も継続してほしい。

**その他** 「語り継ぐ会」の方の説明は、何よりもいのちの大切さに重点を置いた説得力のある解説だった。家族を失った悲しさを乗り越え、未来を生きる子どもたちに切々と伝えていただいく言葉には力があつた。多くの子どもたちに参加してほしい。

## 実践名：「夢を叶える努力をしよう」

領域：総合的な学習の時間（４年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年4月14日～平成27年3月20日

◎ 志教育にかかわるねらい（~~かかわる~~ ~~もとめる~~ ~~はたす~~）

- 自分の将来の夢、希望を見つめ、夢を叶えるために、どのような努力をしたらよいか具体的に考える。（もとめる）

- 友達の夢を認めたり互いに励まし合ったりしながら、夢の実現を目指していく。

（かかわる）

- 夢を叶えるための努力がどうだったか振り返る。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 自分の将来の夢について考える。（4月、1年生は6月）

- 具体的な夢を考え、星の形をしたカードに各自記入する。

- 記入したカードを学級毎、ラシヤ紙にまとめて貼り、自分の夢を発表する。

- 学級毎の夢は、廊下や階段などに掲示し、常に目に触れるようにする。

- 4年生以上の学年は、「志シート」にも夢や具体的に努力する事項を記入し、教室内に掲示する。

2 夢実現のために努力する。

- 校舎内に掲示してある「夢」を見て、友達と互いに励まし合う。

- 月に一度の「よいこと朝会」で、志教育部担当の教師から、夢を実現するための方法や著名人の話などを聞く。

- 各教科の学習や道徳、総合的な学習の時間などを利用して、定期的に夢実現のために努力しているか振り返る。

3 振り返りをする。

- 学期毎に、夢に向かって努力した内容を振り返り、色別のシール（金、銀、銅）を星形のカードに貼る。

- 志シートには、2月の時点で振り返りをさせ、担任、保護者からコメントをもらい、次年度へ引き継ぐ。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- あまりにも現実とかけ離れた夢にならないように指導を行う。

- 「よいこと朝会」では、志教育部担当の教師が分担して話をし、内容が偏らないようにする。

◎ 実践を振り返って

成果

自分の夢が廊下や階段に掲示されているので、毎日のように意識しながら生活することができた。また、自分の夢だけでなく、友達の夢を知ることができ、応援することができた。「よいこと朝会」で、教師側からの話を聞き、学級に戻ってから更に担任の話で、各自の振り返りや頑張ろうとする意欲付けを行うことができた。学期の終わりにシールを貼る際には、一人ずつどうしてその色だったのか反省を発表させた学級もあり、より深く振り返りをすることができた。

課題

夢を書く際に、何を書いてよいか分からない児童もいた。ただ何となく「これならカッコいいかな。」ということで書いている児童も若干いた。特に、低学年の児童にとっては難しいことのようなのである。

その他

星の色を学年別に行っているため、どの学年のものか分かりやすい。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立高倉小学校

### 実践名：「楽しい遠足」

領域：学級活動、学校行事（2年）

#### ◎ 実施期日（期間）

- 事前指導 平成26年5月30日（学級活動）
- 遠足 平成26年6月6日（学校行事5時間）
- 事後指導 平成26年6月9日（朝の会）

#### ◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・もとめる **はたす**

- 遠足を通して、今まで以上に信頼し合える人間関係を築く力や社会性を養う。  
(かかわる)
- 遠足でのグループ活動を通して、自分の役割を果たすとともに、友達のために進んで働く心情を育む。(はたす)

#### ◎ 具体的な学習・活動の流れ

- グループごとに約束やめあて、役割を決める。 5/30（金）
  - 1, 2年生合同のグループを編制する。2年生が中心となり、各グループのめあてや水族館やかまぼこ工場での見学の約束を決める。
  - 2年生がリーダー、副リーダーを、1年生は保健係とお手伝い係を分担する。それぞれの係でどのような仕事をするのかを確認する。
- バスの中でのレクリエーションを決める。 5/30（金）
  - バスの中で、1, 2年生が楽しく過ごせるような歌やゲーム、遊びなどを考える。
- 1年生のお世話をしながら見学をする。 6/6（金）
  - 1年生の前後を2年生が挟むようにして移動し、安全面と、1年生が迷子にならないように気を付けながら見学をする。
- めあての振り返りを行う。 6/9（月）
  - グループのめあてや約束が守れたか、各自で決めためあては達成できたか等について学級で振り返りを行う。振り返りカードに自分なりにがんばったことを記入する。

#### ◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- 責任をもって取り組めるように、2年生はリーダーと副リーダーを、1年生は保健係、お手伝い係を担当し、全員に仕事を受けもたせた。また、2年生が1年生をリードしていくことができるように、教師は後方から子どもたちの活動の様子を見守るようにした。
- 2年生としての役割を意識させるために、2年生に出発式や到着式を進行させたり、グループのめあてや感想を発表させたりした。
- 各自が立てためあてを教室に掲示し、教師から励ましの声を掛け、子どもたちが意欲をもって活動に臨めるように留意した。

#### ◎ 実践を振り返って

**成果** 自分たちで考えためあてや役割なので、それらをしっかりと果たそうとする態度が見られた。また、事前に1年生との話し合いをもったことで、遠足当日も1年生のお世話をし、進んでかかわろうとする姿が見られた。

**課題** 今回は、それぞれの学年で振り返りを行った。1, 2年生合同で振り返りを行えば、2年生としての責任感や1年生とかかわろうとする気持ちがさらに高まるのではないかと思う。

## 領域にかかわる実践事例

大崎市立古川第五小学校

### 実践名：「めあてのふりかえり」

領域：学級活動（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年8月より実施

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる **もとめる**・はたす）

- ・ 新学期のめあてを決め、そのめあてを月ごとに振り返ることで、目指す自分に近づこうとする態度や実践力を育む。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 新学期のめあてを決める。（8月、1月）

「新学期を迎えて」（学級活動）

- 自分の新学期のめあてを決め、工夫して実践できるようにする。
    - ・ 前学期のめあての努力の様子について話し合う。
    - ・ 新学期はどんなことを頑張るのかを話し合う。
    - ・ 2学期の自分のめあてを決め、カードに記入する。
    - ・ どのようにしたらめあてを達成できるかを考え発表する。
- 2 めあてを振り返る（毎月）
- 「めあてのふりかえり」（朝の会、帰りの会）
- どんな人になりたいのか改めて考える。
    - ・ めあてに向かって努力したことについて話し合う。
    - ・ めあてカードに自己評価を記入する。
    - ・ これからの1か月、どんなことを頑張るか話し合う。

<低学年カード例>



<高学年カード記入例>



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ これまでの学習や生活の様子を想起させる。
- ・ 新学期の学習活動や行事について知らせる。
- ・ 自分で頑張りたいことを考えさせる。
- ・ これまでの取組を賞賛し、今後の取組を励ますことで、実践への意欲付けをする。

◎ 実践を振り返って

**成果** 新学期のめあてを毎月振り返らせることにより、「どんな人になりたいのか」を児童が意識し、日々の実践につなげることができた。

全学年で取り組むことにより、常になりたい自分を目指していこうとする気持ちを全校で醸成することができた。

**課題** 月ごとの振り返りをすることができたが、一週間の振り返りや一日の振り返りを全校でどのように取り組んでいくか吟味する必要がある。

**その他** 今年度は、各学年で月ごとの振り返りを記入できるカードを工夫することができた。今後は系統性を踏まえた本校のスタイルを確立したい。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立三本木小学校

### 実践名：「二階堂トクヨ-女子体育を広めて-」

領域：道徳（5年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成26年11月28日
- ◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・**もとめる**・**はたす**）
- ・ トクヨが多く苦難を乗り越え、自分の後に続く者たちのためにつくした業績や生き方を児童に深く考えさせるとともに、地域や社会に貢献しようとする意欲や志を高める。（もとめる、はたす）
- ◎ 具体的な学習・活動の流れ
- 1 スポーツの楽しさについて話し合う
  - 2 本時の資料「二階堂トクヨ-女子体育を広めて-」を読んで話し合う
    - ・ トクヨが留学生に選ばれた理由について話し合う。
    - ・ イギリスの体操専門学校の实力テストで0点だったトクヨの気持ちを考える。
    - ・ 恵まれた環境の中で努力を重ねるトクヨの思いについて話し合う。
    - ・ 困難を乗り越えて「運動の楽しさ」を伝えるため二階堂体操塾を開いたトクヨの気持ちを話し合う。
    - ・ トクヨの新しいものを求める姿勢を生徒たちはどのように受け止めたかを考える。
  - 3 自分の生活経験について話し合う
    - ・ これまでに新しい自分のアイデアを生かしたルールや作戦を考えたり、作ったりして工夫したことがありますか。それはどんなことだったのでしょうか。
  - 4 教師の話聞く
- ◎ 指導のポイントや手立ての工夫
- ・ 事前に創意工夫・進取に関するアンケートをとり、導入で提示することで意欲付けを図りたい。
  - ・ 明治という時代背景やその頃の女子体育の様子について補足説明できるようにしたい。
  - ・ 進んで新しいものを求め、工夫して生活をよりよくしようとした経験を想起させ、児童が発表できる場を設定する。

### ◎ 実践を振り返って

- 成果**
- ・ 自分の後に続くものたちのために尽くした先人の業績や生き方について共感することができた。
  - ・ 創意工夫・進取をして生活することの大切さを考え、発表することができた。
- 課題**
- ・ 明治という時代背景やその頃の女子体育の様子についてとらえさせるのが難しかった。
- その他**
- ・ 事前に創意工夫・進取に関するアンケートをとり、導入で提示することで学習への意欲付けを図るとよい。

## 領域にかかわる実践事例

大崎市立真山小学校

### 実践名：「林業体験」

領域：総合的な学習の時間（5・6年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年12月3日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる** **もとめる**・はたす）

- 1 ふるさとの森林に親しませることにより、自然のすばらしさを感じ取り、自然を守っていかうとする態度を育てる。（かかわる）
- 2 林業に関心を持ち、意欲的に学習する態度を育てる。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

#### 1 事前学習

- (1) 枝打ち、間伐について知る。
- (2) 個人の学習課題を設定する。

#### 2 林業体験 場所：千本松長根（学区内）

##### (1) 枝打ち体験

一人一人柄の長いのこぎりを使って、枝打ちをする。

##### (2) 間伐体験

3人グループになり、間伐をする木選びから倒す方向まで自分たちで考え、間伐を行う。3人で1本の木を枝打ちする。なかなかのこぎりが進まないことや、切っても他の枝に引っかかってしまうなど、木を倒すことの苦勞を知る。

##### (3) チェーンソーを使った間伐の実演

実際にチェーンソーを使ってどのように木を倒すかを講師の先生に見せていただく。自分たちが時間をかけて苦勞した間伐も、チェーンソーを使うとすぐにできることを知る。

#### 3 事後学習

講師の先生方へ感想とお礼を綴った手紙を書く。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・林業の仕事をしている方々との交流と作業を通して、林業という仕事の苦勞や意義、役割などについて学び取らせる。
- ・学区内で活動することで、身近な自然に対する親しみと地域のよさを感じ取らせる。



◎ 実践を振り返って

**成果** 活動当日は、雪交じりの雨であいにくの天候であったが、より一層林業の苦勞を知ることができた。事前指導で学習した知識と体験を通して得たことにより、林業についての理解を深めることができた。

**課題** 林業について、自分なりの課題をもたせて取り組ませていけば、より一層主体的な学習が望めた。事前学習は教師主体となってしまったので、子どもたちの関心意欲を高める手立てが必要であった。

**その他** 本校では、2学年合同で総合的な学習を行っている。林業体験は隔年で行っているが、今後もこのような体験活動に取り組んでいきたい。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立川渡小学校

### 実践名：「一人はみんなのために」

領域：総合的な学習の時間（４年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年12月8日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・様々な人とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を深化させる。（かかわる）
- ・集団や組織の中で、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う。（もとめる）
- ・学校で学ぶ知識と社会や職業との関連を実感させる。（もとめる）
- ・集団や組織の中で、自分の果たすべき役割を認識させる。（はたす）
- ・自己の役割を果たすことによって自己有用感を高める。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 りんどう苑について知っていることを自由に話す。
- 2 りんどう苑の様子をビデオや資料で見て、大体的様子をつかむ。
- 3 みんなでりんどう苑に行き交流することを知る。
- 4 入所している人たちが喜ぶことは何かを考える。
- 5 決めた出し物の練習をしたり、出し物で使うものを作ったりする。
- 6 当日の発表・交流の役割分担をし、全体の流れをつかんでリハーサルをする。
- 7 りんどう苑に行き、発表や交流をする。



- 8 事後の感想をまとめ、りんどう苑や関係機関に送る。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・発表したいことや、交流したいことが焦点化されるようなグループ編制を行う。
- ・役割分担を明確化することにより、一人一人が役割を果たせるように支援し、達成感を味わわせる。

◎ 実践を振り返って

**成果** ・自分たちが企画したお楽しみ会で園児に喜んでもらった体験を通して、もっとボランティア活動をしてみたいという意欲が高まった。

**課題** ・りんどう苑には、「12月は感染症が心配される」という理由で訪問できなかった。「11月初め頃までなら受け入れ可能」とのことだったため、計画的に実施する必要があった。

**その他** ・りんどう苑への訪問ができなかったため、代替りの訪問先を探していたところ、川渡幼稚園に快く受け入れていただいた。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立川渡小学校

### 実践名：「田んぼは命のみなもと」

領域：総合的な学習の時間（5年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月6日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・様々な人とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を深化させる。（かかわる）
- ・集団や組織の中で、よりよい人間関係を築く力や社会性を養う。（もとめる）
- ・学校で学ぶ知識と社会や職業との関連を実感させる。（もとめる）
- ・集団や組織の中で、自分の果たすべき役割を認識させる。（はたす）
- ・自己の役割を果たすことによって自己有用感を高める。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 田んぼのことで知っていることを発表し、どんなことをしたいか、調べてみたいかを考える。
- 2 大尺地区の田んぼで田植え体験をする。
- 3 もっと知りたいことや調べたいこと、疑問に思ったことを出し合い、さらに同じ内容ごとに集約させ、課題を設定する。
- 4 大尺地区の田んぼで田の草取り体験をする。
- 5 大尺地区の田んぼで稲刈り体験をする。
- 6 調べたことをまとめ、発表会をする。
- 7 大尺地区の方々を招いて収穫感謝の会を開く。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・調べたいことが焦点化されるようなグループ編制を行う。
- ・田植え、草取り、稲刈りの体験ごとに、「感じたこと」「初めて分かったこと」「疑問に思ったこと」などを短冊などにまとめさせる。
- ・調べたことを様々な方法（壁新聞、紙芝居、クイズなど）で発表できるようにさせる。

◎ 実践を振り返って

- 成果** ・地域の米作りにかかわり、農業の大変さや苦勞などを知ることができた。さらに、環境を大切にしながら米作りをしている人々の工夫や努力について考えることができた。
- ・地域の方々に教えてもらったり、手伝ってもらったりすることが、異なる世代の人たちとコミュニケーションをとる貴重な機会となった。
- 課題** ・協力していただいた地域の方々を招いた発表会ができると、児童の意欲がさらに高められる。
- その他** ・野外での活動なので、生き物に触れ合う時間もとることができた。



## 実践名：「鬼首めぐり」

領域：総合的な学習の時間（3・4年）

◎実施期日（期間）平成26年6月25日

◎志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・ 地域の人たちとかわり、郷土の歴史への関心を高める。（かかわる）
- ・ 地域の歴史的な資産について体験したことを、工夫して他者に伝える。（はたす）

◎具体的な学習・活動の流れ



### 1 鬼首探検（学年PTA行事）

①地域の方の畑を借りて縄文土器の発掘体験をする。

- ・ 縄文時代、鬼首に人が住んでいた話を聞き、どんな暮らしをしていたのか想像する。

②歴史的特徴をもつ建造物を見学する。

- ・ 鬼首の人たちのルーツは九州の福岡県にさかのぼるといってお話を聞く。
- ・ 鬼首に残る「歌舞伎門」という歴史的特徴をもつ門を見学し、その由来についてお話を聞く。

③地域の「水のめぐみ」について考える。

- ・ 荒雄川水源近くにある「水神」を見学する。
- ・ 荒雄川の水が、岩出山や古川など下流域の水田を潤し、その地域の農家の人たちが感謝の気持ちを込めて創ったという経緯を聞く
- ・ 改めて水のめぐみや、荒雄川が繋げる地域の交流について考える。

### 2 発見したことを発表する。（学習参観）

- ・ 「1」の体験を再構成し劇化して授業参観で保護者や地域のみなさんに発表し感じたことを伝える。

◎ 実践を振り返って

**成果**：鬼首の歴史的な遺構や史跡などを見学し、新しい発見をすることで、地域の文化を守ってきた人々を敬う気持ちが高まっていった。将来は、自分達が地域の人々とのかわりを大切にしながら、地域の文化を守るために自分がやらなければならないことについて考えられるようになってきた。

**課題**：1回きりの活動でなく、今後どのようにつなげていくかが課題。

**その他**：PTA行事として保護者とともに学ぶことができ、保護者も認識を新たにすることができたし、子ども達と一緒に勉強できてよかった、という感想があった。

## 実践名：「森林の恵み」

領域：総合的な学習の時間（5・6年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年4月26日～12月4日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・**もとめる**・**はたす**

- ・ 地域の人たちとかかわり、体験を通して郷土への関心を高める。（かかわる）
- ・ 緑豊かな鬼首のよさに気づき、鬼首の未来について考え、自ら活動しようとする。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 鬼首のよいところを発見しよう

- ・ 鬼首の森林について知っていることを話し合う。

2 調べることを決めよう

- ・ 各自が関心をもっていることを発表し合い、見学や体験ができる所を考え、話し合う。

3 禿岳登山をしよう

- ・ 禿岳登山を通して、故郷の自然の特徴について知る。

4 田代川の湿地林へ行ってみよう

- ・ 湿地林の植物の様子を知る。また、水が湧き出している所を発見し、水の冷たさや、自然を感じ取る。水辺の動植物についても調べる。

5 植林体験をしよう

- ・ 植林を通して、森林がきれいな水をつくり出していることを知る。

6 枝払いを体験しよう

- ・ 枝払い体験を通して、豊かな森林を保全する工夫や苦勞について知る。

7 発見したことを伝えよう〈学習参観〉

- ・ 森林の恵みについて発見したことを写真や言葉にまとめ、発表する。また、故郷のよりよい未来の姿を提案し、分かりやすく伝える工夫をする。
- ・ 保護者や学習でお世話になった地域の方々を招き、学習の成果を発表する。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 生物にとって森林はとても大切なものである。禿岳登山や田代川湿地林の散策を通して、豊かな自然の恵みや清らかな川水の恩恵を受けていることを感じ取らせるようにする。また、植林活動を通して、森林を保全するためには適切な知識と工夫が必要なことを学ばせ、豊かな自然を自分たちの手で守るという意識をもたせるようにする。

◎ 実践を振り返って

**成果** 学習全体を通して、自然のすばらしさに感謝する気持ちや、自然を守ろうとしている人々の働きを知り感謝する気持ちを育てることができた。また、今そして将来、自分がやれること、自分の役割は何かを考えて実行することの大切さに気付かせることができた。

**課題** 地域の方々にたくさんの協力を得ることができ、たくさんの体験活動を行うことができた。今後も地域の人材を活用できるように引き継いでいきたい。



## 実践名：「自然環境を見つめよう」

## －田んぼとわたしたちの大貫－

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年9月～11月

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる** **もとめる**・はたす）

- ・ 家族や地域の人々に、昔の生活の様子を取材し、自分たちの地域の歴史を4つの観点（自然・仕事・町の様子・文化）から知る。（かかわる）
- ・ 学校や地域のよさを見つけ、将来の地域の様子について自分たちの夢をもたせる。（もとめる）
- ・ 外国の友達（タイ・フィリピン）と交流することで、異文化理解や自国理解を図る。（かかわる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

## 1 地域の歴史を調べる

- ・ 4つの観点（自然・仕事・町の様子・文化）で、50年ぐらい前（おじいさんが小学生だったころ）・30年ぐらい前（お父さんが小学生だったころ）・今を調べる。

## 2 未来の姿を創造する

- ・ 4つの観点から未来の大貫を考え、模型（ジオラマ）で表す。
- ・ グループごとに、特に詳しく考えた施設を模型で作る。
- ・ タイやフィリピンの友達に、模型を説明しながら大貫の未来について紹介する。  
(スカイプを使ったテレビ会議)
- ・ 外国の学校の発表を聞き、大貫との相違点や類似点を知ることによって異文化理解や自国理解を深める。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 地形図を基に模型の土台を作り、そこに建物や木や田んぼなどの自然物を作って設置する。
- ・ 特に紹介したい施設を決め、施設の中を模型で表す。
- ・ テレビ会議では、グループごとに施設の模型を説明しながら未来について考えたことを発表する。
- ・ 国際交流では言葉が直接は通じないため、目に見える模型を介しての交流にする。



◎ 実践を振り返って

**成果**： 未来の大貫を考え表現する手段として模型作りを取り入れたことで、具体的に考えることができ、作りながら夢を膨らませることができた。さらに、地域の歴史を知り未来の姿を考えることで、ふるさとを愛する心情を高めることができた。また、国際協働学習で異文化理解や自国理解も深めることができた。

**課題**： 自分たちの学びを発表する場の設定を工夫していきたい。今年度は、外国の学校とのテレビ会議を実施したが、地域の人たちに向けての発表も検討したい。

**その他**： ESD Rice プロジェクトの取組の一環としての実践であったが、ふるさと大貫に対する夢と希望をもたせることができた。今後も、継続して『HOPE』の手法を取り入れながら、子どもたちの夢や志を育てていきたい。

## 領域にかかわる実践事例

加美町立鳴瀬小学校

### 実践名：「農業体験学習」

領域：総合的な学習の時間（5年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年9月10日（水）～9月12日（金）

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

・ 農業体験を通して地域の自然に触れ、地域の人と進んで関わることでふるさとのよさに気付く。  
(かかわる)

・ 種まきや苗植え、収穫などの農業体験、職場体験を通して自分の役割をきちんと果たす。  
(はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

#### 1 対面式

・ お世話になる農家の方と対面する。

#### 2 職場体験

- ・ 「やくしの湯」ではカウンターでの受付や敬老会での接客体験をした。
- ・ 「ウォーターパーク」では、プールの監視、カウンターでの受付を体験した。
- ・ 「ぶな林」では、レストラン周辺の除草作業などの清掃を体験した。
- ・ 「林泉館」では、ふとんたたみや茶碗洗いなどの接客体験をした。

#### 3 農作業体験

・ 宿泊した農家で種まきや苗をポットに植えることや、加工トマトの収穫などを体験した。

#### 4 退村式

・ お世話になった農家の人に感謝の気持ちを伝えた。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

お世話になる農家の人や職場の人に進んで関わり、感謝の気持ちをもって進んで取り組めるようにする。



対面式の様子



職場体験の様子

◎ 実践を振り返って

**成果** 農業体験を通して地域の様々な方と関わり、収穫などの体験を通して、農作業に親しみ、地域の自然や特産品などにも関心をもつことができた。

職場体験をしたり農家の手伝いをしたりし、進んで仕事をする大切さに気付いた。

**課題** 民泊体験の職場体験では、どのような仕事を体験するのか、仕事の内容について事前に打ち合わせをし、よりよい体験ができるよう連携を深めていくとよいと思う。



## 領域にかかわる実践事例

加美町立東小野田小学校

### 実践名：「親子でもちつきをしよう」（学年PTC行事）

領域：総合的な学習の時間（5年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月28日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる** **はたす**）

- ・ 5年生の「総合的な学習の時間」のテーマの1つである「米作り」のまとめとして、1年間育てて収穫した米をもちにして食べることで、やりがいや達成感を味わわせる。（はたす）
- ・ 親子でもちつきを体験することで、父親のもちをつくときの力強さや、母親の料理をするときの優しさに触れながら、親子の交流を深める。（かかわる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

#### 1 前日

- ・ もち米を研ぎ、水に浸しておく。
- ・ 米を量るときの単位「合」や「升」についての説明を聞く。
- ・ 初から精米することで、玄米や白米になることを聞く。



#### 2 当日

- ・ 事前にふかしてもらっていたもち米を臼と杵でこねる。始めのこねる作業が、力がいり、難しいという説明を聞く。
- ・ こねたもち米を親子でつく。杵の重さを実感しながらもちつきの大変さを知る。
- ・ 杵でつく人との息を合わせて合の手を入れることの難しさを知る。
- ・ 杵でつくときに掛け声を掛けることの意義について知る。
- ・ ついていないもち米の味を味わうことで、もちともち米の味の違いに気付く。
- ・ 事前に準備してもらっていた具材ともちをあわせ、親子で一緒に食べる。
- ・ 1年間の「米作り」の集大成としてもちをいただくことで、米作りの大変さだけでなく、そのやりがいや達成感を味わう。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 本活動のねらいを十分に達成させるため、地域の様々な方々に指導していただきながら進めてきた活動のまとめの時期に設定する。また親子の交流を深め、「もちつき」の活動により積極的に取り組ませるために、これまで保護者中心で行ってきた準備を児童も行うような設定をする。なるべく多くの大人の協力を得るために学年PTC行事として日時を設定する。

◎ 実践を振り返って

**成果** 児童が1年間かけて育てた米をもちにして食べたことで、米作りの意義や食のつながりに迫ることができた。また、親子でもちつきをしたことで、父親の力強さや母親の優しさをより感じるすることができた。さらに掛け声を掛けながらもちをつくという日本の伝統的な風習についても学習することができた。

**課題** 今回のもちつきは貴重な体験であり、もちつきの道具や指導できる親がいたからできたが、指導できる人や道具がない場合は、実施することが難しい。今後は、継続して活動するために、地域の人材を活用できる環境を整えることが必要である。

## 領域にかかわる実践事例

加美町立東小野田小学校

### 実践名：「東京横浜ドイツ学園交流会」

領域：総合的な学習の時間（6年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年6月5日～平成26年6月7日

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる**・もとめる・**はたす**

- ・ 東京横浜より2泊3日でホームステイするドイツ学園の児童と一緒に活動しながら、かかわりを深める。（かかわる）
- ・ 生活体験や言語が異なる児童と理解し合い、協力しながら体験活動をしよ  
うとする意識をもたせる。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 西小野田小学校に小野田地区3校が集まり、ドイツ学園の児童と歓迎会を行  
う。

その後何軒かの家にホームステイをする。

2 東小野田小学校にドイツ学園の児童を招  
き、一緒に活動する。

① 全校歓迎交流会をする

- ・ 全校の児童が体育館に集合し、ドイ  
ツ学園の児童と互いに挨拶をしたり、  
ゲームを行って、交流する。

② 6年生との交流をする

- ・ 荒沢自然館に移動し、周辺の自然散  
策を行い、小野田の自然の中でドイツ  
学園の児童と交流を深める。その後自然館に戻り、木の枝や木の実を使っ  
た創作活動（ペン立てづくり）を一緒に行い、交流を深める。
- ・ 学校近くの寺の本堂で座禅体験（伝統的日本文化と接する）を行う。  
住職さんに、日本のお寺について説明をしていただき、その後座禅の仕方  
の話を聞いた後、一緒に座禅を行う。

※ ドイツ学園の児童は、2泊3日の間6年生の何件かの家庭にホームステイ  
をしており、家庭でも様々な交流が見られた。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 言葉や文化が違う相手と児童が進んで交流を深められるように取り組みや  
すい活動内容（ゲーム・物づくり体験等）を設定する。また、ドイツ学園側  
は思い出作りも行う目標もあり、それを踏まえた活動を設定する。



◎ 実践を振り返って

**成果**： 「かかわる」体験を中心とした活動により、ドイツ学園の児童との交  
流が深まり、互いに理解し合うことができ、貴重な体験をすることがで  
きた。交流後も手紙のやり取りをしている児童も見られる。

**課題**： 1日目は小野田地区3校合同での歓迎会を行い、2日目以降は1校の  
みで交流活動を実施している。3年に1回の交流であるため、交流の内  
容を次回にしっかり引き継ぐことが必要である。



## 実践名：「鹿原のよさを発信しよう！」

領域：総合的な学習の時間（5・6年）

- ◎ 実施期日（期間） 平成26年10月23日
- ◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）
  - ・鹿原の自然、そこに暮らす人々、大好きな場所などを調べ、鹿原のよさを見直し多くの人に伝える計画を立てる。（かかわる）
  - ・地域のイベントを計画する楽しさや難しさを体験し、将来地域のリーダーとして活躍したいという思いを抱く。（かかわる）

### ◎ 具体的な学習・活動の流れ

#### 【かのはら大好きプロジェクト（2/15時間）】

- 1 やくらいトラベル会社の支店をグループごとに作る。
  - ・5人1グループで、トラベル会社の支店を組織する。
  - ・支店長、イベント担当、食事&宿担当、体験活動担当、絶景ポイント担当の係を分担する。
- 2 講師の先生が地域の活性化のために行っている活動を紹介してもらう。
  - ・「小野田健郷青友会」の活動紹介DVDを見ながら、講師の先生の故郷への思いを聞く。
- 3 グループごとにパンフレットを活用し、地域の観光スポットやイベントを探す。
  - ・小野田地区で行われるイベントのパンフレットを読みいつ、どんなイベントや行事が行われるかを調べる。
- 4 グループ（支店）ごとに、おすすめの観光プラン（企画書）を作る。
  - ・いつ、どんな人を対象に「観光ツアー」を作って宣伝するか話し合う。
  - ・目玉の観光や料金などを細かく企画書にかき込む。
- 5 各グループ（各支店）の発表



▲「おすすめ観光プラン」をみんなで話し合って作成する。



▲講師の先生から、アドバイスをもらいより良いプランを作る。

### ◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・地域の活性化のために様々な活動をしている方（保護者）をゲストティーチャーに招き、身近な人・場所・行事を「よさ」として見つめ直すことができるようにする。
- ・グループ毎に役割分担をして、みんなで協力して楽しい企画を立てられるように進める。

### ◎ 実践を振り返って

**成果** 身近な方が、地域を活性化しようという思いからイベントを企画・運営している具体的な話を聞き、身近な行事や場所、人を「よさ」として見つめ直すことができたようになった。憧れを抱き「地域のリーダーとして活躍したい」という感想が多く見られた。

**課題** 関わり感じた事を、自己の課題に結びつけて解決する活動を進める必要がある。

**その他** 事前に講師の先生と打合わせをして、児童が具体的・意欲的に活動できるように進めていく必要がある。

## 実践名：「地域の伝統文化継承の取り組み」 ～「小里獅子舞」の活動を通して～

領域：総合的な学習の時間（5・6年）

◎ 実施期日（期間） 5年次・6年次

◎ はじめに

小里獅子舞は明治時代に生まれ、戦争時は途絶えたが新しい村づくりをしていこうとする際に人々が交流する場を作るために復活させた伝統芸能で、この地区に昔から火事が多かったため、それを追ひ払う願いを込めたものであると言われている。本校では、平成10年以降、総合的な学習の時間に地域学習の一環として6年生がその継承に取り組んできた。

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**）（**もとめる**）（**はたす**）

- ・ 小里獅子舞で演奏される大太鼓や小太鼓、リコーダー、ちゃっば、また演じる獅子や先導役のパートごとに責任をもって演奏の仕方を引き継いでいく。（かかわる）
- ・ 総合的な学習の時間や各行事などで小里獅子舞を演じる際、与えられた範囲内でよりよく発表するためのプログラムについて考える。（もとめる）
- ・ 地域の老人会の方から小里獅子舞の話を聞いたり、老人会との交流会において会話をしたりする中で、自分が地域の一員としてどのような役割を担っていけるかについて考える。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 6年生から5年生に引き継ぐ。
  - ・ 12月になると、6年生から5年生へと小里獅子舞を引き継ぐ。総合的な学習の時間だけでなく、休み時間等も利用している。
- 2 地区老人会交流で発表する。
  - ・ 引き継ぎ後の最初の発表は、総合的な学習の時間の活動として5年生と老人会との交流会である。ここでは七草粥の作り方を教えていただき、会話を楽しみながら会食をし、プログラムの一つとして小里獅子舞を発表する。
- 3 各行事で発表する。
  - ・ 6年生になってからは入学式、学芸会、郡音楽祭、小里まつりなどの行事の際に発表する。毎年、地域の方々から大きな拍手をいただき、児童は「次の活動も頑張ろう」という意欲をもつとともに、伝統を受け継ぎ地域の一員として認めていただいた喜びを実感している。
- 4 振り返りを行う。
  - ・ よかった点や改良点を話し合い、自分や友達のがよかったところを認め合ったり、次に生かそうとする態度を養ったりする時間を設ける。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 練習、発表とどの活動においても必ず他者とかわることを意識させ、「どのように自分が取り組めば、小里獅子舞をよりよくしていけるか」について考えさせる。

【5・6年生小里獅子舞引継ぎ】



【老人会で小里獅子舞を披露】



◎ 実践を振り返って

**成果** どの児童も、「小里小学校の伝統ある『小里獅子舞』」と考え、活動には意欲的である。各パートの教え合いも見られ、「ここがよかったよ」など互いに認め合う場面も見られた。

**課題** 学校が統合することで、小里獅子舞の扱いを考える必要がある。また、老人会や地域の方は、地域に根付く「伝統芸能」を楽しみにしている。その期待に応えられるよう、実態を踏まえながらできることに取り組んでいく。

**その他** 小里獅子舞を演じた後の児童は、とても晴れ晴れとした笑顔である。児童の心が一つとなって取り組むことができる、小里小学校にとって大切な学習活動であると言える。



## 領域にかかわる実践事例

美里町立小牛田小学校

### 実践名：「はしのうえの おおかみ」

領域：道徳（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年 10月 30日（木）

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・家族や友だちなど、身近な人々に親切にしたり、自分の気持ちを伝えることができるようにする。（かかわる）
- ・家族や友だちなど、身近な人々に親切にしようとする気持ちをもてるようにする。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 親切にされた経験を発表し合う。

- ・親切のよさを聞くことで、前向きな気持ちで学習に臨めるようにする。

2 「はしのうえの おおかみ」を読んで話し合う。

- ・小さい動物を通せんぼするおおかみの気持ちを考える。
- ・くまの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみの気持ちを考える。
- ・優しくなったおおかみの行動から気持ちを考える。

3 親切について、これまでの自分を振り返る。

- ・身近な人に親切にできたことはあるか、意地悪なことをしてしまったことはあるかを振り返る。

4 学習のまとめをする。

- ・「わたしたちの道徳」P66～67 「あたたかい心で親切に」を活用。家庭での実践へつなげる。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・一本橋などのイメージがつかめるよう、平均台を用意して実際に役割演技を行う。
- ・くまの後ろ姿をいつまでも見ていたおおかみの気持ちをワークシートの吹き出しに書き、発表する。
- ・日常生活でも行おうという心情をもたせるために、自分のできることを小さなことから具体的に書かせる。
- ・心の円グラフ（青はいじわるな心、ピンクはあたたかい心）を表示し、おおかみの心の動きを考える手助けにした。

◎ 実践を振り返って

**成果** ・くまの行動から、おおかみの気持ちを考え、友だちに対してどのように接するとい  
いのかを考えることができた。

・小さなことでも具体的に、まわりの人に自分ができていることを考えることができた。

**課題** ・家庭での実践については、協力が必要なため、お便りなどでお願いしておくことが  
大切である。

**その他** ・授業後、親切な行動をしている友だちがいたときには、帰りの会で発表したり、学  
級の「いいことの本」に書いて掲示したりして、日常化を図った。

## 実践名：楽しもう、がんばろう「志田っ子祭」

教科・領域：生活、児童会活動（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年11月14日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 幼稚園児や異学年の子どもたち、地域の人たち等との交流をもち、人とかかわることの楽しさを感じ、積極的に働きかけようとする気持ちをもつ。（かかわる）
- ・ みんなで分担した準備やお店当番の仕事を、誠意をもってはたそうとする。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

### 1 話し合いの段階

- ・ どのようなお店にするか、どのような準備をするか、どのような仕事をするかなどを話し合う。また幼稚園児から大人まで楽しめるお店の内容やどのような仕事をすればよいか、たくさんの人たちが来て喜んでもらえるようにするにはどうしたらよいかを考え、話し合う。

### 2 お店（釣り屋さん）の準備をする段階

- ・ みんなで協力し合ってお店に来た人が釣りたいくなるようなものを作って作ったり、喜んでもらえるような景品を作ったりして、店をどのように運営するか分担する。

### 3 「志田っ子祭」当日・事後の段階

- ・ 計画に従って、自分たちの店の当番をしたり、他の学年の出店で遊んだりする。
- ・ 楽しかったことやうれしかったこと、頑張れたことを発表し合ったり、絵や文章に書き表したりすることで振り返りをする。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 児童がいろいろなものを作るときや仕事を分担するときなどには、主体的に取り組めるように、場を設定したり、時間を十分に確保したりする。



◎ 実践を振り返って

**成果** 準備段階から主体的に取り組み、児童一人一人の意欲的な活動ができた。また、1年生のがんばりを家庭や地域の人たちに認めてもらうことができた。

**課題** 学芸会が終了してからの取組になるので、計画的に準備を進めるようにしていきたい。



## 教科・領域にかかわる実践事例

大崎市立志田小学校

### 実践名：「志田っ子ソーラン」を踊ろう

教科・領域：体育・総合的な学習の時間（5年）

◎ 実施期間 平成26年9月～11月

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ 志田小の伝統となった志田っ子ソーランを踊るための意欲をもつ。（かかわる）
- ・ 自らの踊りの質を上げるとともに、下級生に踊り方を教えるために、どのようにしたらよいか考える。（もとめる）
- ・ 学芸会やシルバーフェスティバル、志田っ子祭で踊りを披露する。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 志田っ子ソーランを学芸会で踊ることを知り、下級生に教える責任感をもつ。

- ・ 学芸会での発表を、志田っ子ソーランとすることを伝える。昨年度踊った写真を提示したり、そのときの気持ちなどを想起させたりし、活動への意欲をもたせる。
- ・ 4年生に指導する立場にあることを伝え、踊り全体をよいものにしようとする責任感をもたせる。

2 練習の中で、4年生に指導する機会をもたせる。

- ・ 全体指導をしながら、5年生が4年生とペアを組み、細かい部分を指導する時間を多く設定する。
- ・ 4年生が踊って5年生が評価する時間（その逆も）を設定し、4年生がどのくらい上手になったかを見取る。

3 学芸会やシルバーフェスティバル、志田っ子祭で踊りを披露する。

- ・ 学芸会では、自分の家族等に向けて披露する。
- ・ 今年はシルバーフェスティバルに参加し披露することができるということで、志田小の伝統を感じ取らせ、誇りをもって踊る。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 志田小の伝統として定着している志田っ子ソーランを踊るという意義を感じ取らせ、誇りを感じさせる。
- ・ 大漁旗を貸してくださった気仙沼の元漁師さんが、震災の波にのまれた泥の中からかき出して見つけた大漁旗にどんな思いを込めているのか、どんな気持ちで志田小学校の児童に踊ってもらいたいかを考えさせる。

◎ 実践を振り返って

**成果** 志田っ子祭で志田っ子ソーランを披露し、その後全校児童で踊ったことにより、全校児童の心が一つになり、一人一人が志田小の伝統の踊りとしてとらえ始めることができている。

**課題** 毎年、学芸会での披露の仕方が固定化してきている現状もあるので、少しずつ進化させた披露の仕方を考え、指導していくと児童の意欲もさらに深まると考えられる。

**その他** もともとソーラン節は北海道の踊りであるが、今や全国的な広がりを見せている。今後は、志田小で踊る意味についてもより深く考えさせていきたい。



実践名：「二分の一成人式をしよう」

教科・領域：国語・道徳・総合的な学習の時間（4年）

◎ 実施期日（期間） 平成27年1月15日～2月28日

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる）** **（もどめる）**・はたす

10歳という節目に、自分を見つめ直し、今までお世話になった方に感謝するとともに、未来に向かって目標をもってよりよく生きていこうとする気持ちをもたせる。

（かかわる、もどめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 道徳 心のノートで今までのことを保護者にインタビューする。

2 国語 「10才のわたし文集を書こう」

①10才までの思い出 ②感謝 ③未来へ の3部構成で作文を書く。

3 学級活動 どんな二分の一成人式にしたいかみんなのテーマを決めよう。

4 音楽 3曲の合唱練習

5 総合的な学習 練習と発表

<発表>（2月28日実施）

～はじめのことば～

① 今までの思い出

② 感謝

③ 未来へ

こんな人になりたい

こんな仕事に就きたい

～おわりのことば～

④ おうちの人から

⑤ 感謝の手紙を渡す

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

◇ 自分のせりふに込めた気持ちが保護者に伝わるように練習させた。

◇ 『十年間のありがとう』の感謝の気持ちをこめて心に残る二分の一成人式をしようというテーマをみんなで決めることにより、そこに向かって気持ちを高めて発表させるようにした。



◎ 実践を振り返って

**成果**

・10年を節目に立ち止まらせ、「今まで一人で生きてきたのではない」ということに気付かせたり感謝の気持ちをもたせたりすることができた。そして、未来へ希望をもって生きることについて考える機会となった。

・未来への思いを自分で明らかにすることにより、明日から「よりよく生きる」という思いをもって生活しようとする気持ちが全体に高まり、学校生活に活気が出た。

・子供の思いが保護者に伝わり、感動を共有できる有意義な式となった。

**課題**

・限られた時間の中で、より効果的な学習が行えるように計画を見直したり手立てを工夫したりする必要がある。



## その他の教育活動にかかわる実践例 大崎市立古川第一小学校

### 実践名：お話朝会「ともだち」について考えよう

その他の教育活動：全校読み聞かせ（全学年）

◎ 実施期日 平成27年1月14日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・はたす）

- ・ 自分にとっての友達や相手にとっての友達の在り方を考え、よりよく友達とかかわっていかうとする。（かかわる）
- ・ 相手を思いやることの大切さに気付き、よりよい友達関係を求めていく。（もとめる）

◎ 具体的な活動の流れ

1 友達について考えさせる。

○ みなさんにとって、「ともだち」ってどんな人ですか？

・ 遊んでくれる人 ・ 相談にのってくれる人 ・ 助けてくれる人 など

2 読み聞かせの聞く観点（友達について考える）を示し、読み聞かせを行う。

○ 「ともだち」谷川俊太郎さんの本を読みます。

3 簡単な振り返りを行う。（全校）

○ 友達について、どんなことを考えましたか。

○ これから友達とどうかかわっていきますか。

○ 相手にとって自分がどんな友達でいたいですか。

4 教室で振り返りを行う。（各教室）

○ 発達段階に応じて振り返りを行う。（例）

・ 「ともだち」について考えたことを話し合う。

・ 互いのよさに触れたり、協力したりするショートエクササイズを行う。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

○ 全校読み聞かせ「ともだち」は、3学期の始まり、または学年末に向けて、よりよい友達関係を考えるためのきっかけとするために設定。各教室で友達とのかかわりを考える機会とした。

○ お話朝会後の事後指導、振り返りを大切に扱う。朝や帰りの会の時間を通して、読み聞かせ後に考えたことを話し合ったり、学活等で、ペアやグループのかかわりを入れたショートエクササイズやゲームなどをしたりしながら、振り返りを行う。振り返りから、よりよい友達関係やかかわり方を今後の実生活の中で意識させ、生かしていく。

◎ 実践を振り返って

**成果**

お話朝会后、各学級ごとにそれぞれの方法で振り返りを行い、友達とのかかわりについて改めて考えたり、気付いたりする機会となった。振り返りカードには、これから自分の生活で意識していきたいことや友達を大切にしたいという気持ちが書かれていた。

**課題**

志教育の視点で全校読み聞かせを行ったことで、学校生活における友達とのかかわりを考えるきっかけとなった。今後道徳や特別活動、各教科の学習そして日常生活において継続して振り返ったり、考えたりすることが必要である。

**その他**

【振り返りの感想例】

- ・ みんなが帰っても待ってあげて、一緒に帰って、仲のよい友達になりたいと思います。友達の失敗を笑わないで、はげましてあげたいと思います。（3年）
- ・ お互いが楽しいと思えるように、友達のことをよく考えて接したいと思いました。困っている時に相談に乗ってあげられる友達、一緒に笑って過ごせる友達でありたいです。（6年）



## その他の教育活動かかわる実践事例 大崎市立富永小学校

### 実践名：「志朝会」

その他の教育活動：朝会（全学年）

◎ **実施期間** 平成26年5月～平成27年2月（年5回）

◎ **志教育にかかわるねらい** **【かかわる】・【もとめる】・【はたす】**

志教育とは、小・中・高等学校の全時期を通じて、人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めさせていく教育と考える。本校では、教職員が一丸となって「志教育」に取り組む中で、学習効果を高めるとともに教職員の意識改革と資質向上を図っている。具体的には、志教育の推進に向けたお話朝会を、年間5回設定した。

◎ **具体的な学習・活動の流れ**

**第1回** 「教育目標ともとめる児童像『強志力行』」【もとめる】（校長）

本校の教育目標やもとめる児童像、校訓の意味を分かりやすく語り聞かせることで、日々の生活を自分自身で律し、よりよい生活を求めようとする態度を養う。

**第2回** 「『本気』『夢』」【もとめる】（校長）

「本気」で「夢」をもって生きることの大切さをいろいろな例を提示しながら語って聞かせることで、よりよい生き方を求めようとする態度を養う。

**第3回** 「チャレンジ！」【もとめる】（外部講師）

美里町在住の音楽家自身が作曲した「チャレンジ！」という曲に込めた思いを知らせることで、全校合唱しようとする態度を育てる。



**第4回** 「さりげない思いやり～和の心～」【かかわる】（教頭）

「木守りの柿」を素材として日本人の心遣いについて考えさせることで、他者に対する何気ない思いやりの心を育てる。

**第5回** 「輝け！命」【はたす】（教務主任）

教師自身の足跡をたどりながら当時の夢や目標を知らせる中で、いろいろな出会いや経験を通して自分に与えられた役割を見つけ、一人一人の命を輝かせようとする心を養う。

◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ パワーポイント等を使いながら、児童一人一人の関心を高めるように工夫する。
- ・ 「かかわる」「もとめる」「はたす」の各項目を相互補完できる内容にする。

◎ **実践を振り返って**

**成果**： 全校児童を対象に話すことで、全校での共通理解・共通行動に結びついている。いろいろな人の話を聞くことで違う角度から志について考えることができている。

**課題**： 1年生から6年生まで全学年が理解できるように、題材や提示の仕方を工夫する必要がある。

**その他**： 4月当初に全6回分のつながりを考えて、内容や期日についての計画を立てることが大切である。



## その他の教育活動にかかわる実践事例

大崎市立西大崎小学校

### 実践名：「先生方のお話」

その他の教育活動：朝会等（全学年）

◎ 実施期日（期間） 平成26年6月～平成27年2月

◎ 志教育にかかわるねらい **かかわる・もとめる・はたす**

- ・ 先生方の小さい頃からの夢やその夢を叶えるための努力や様々な経験を知ることにより、自分の将来の夢や希望をもとうとする気持ちを育てる。（もとめる）
- ・ 「こころ」についての話を聞き、自分の感情や気持ちについて振り返ったり、「リフレーミング」という言葉の意味と内容を知ったりすることにより、自己肯定感を育む。  
(かかわる)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 「朝会 先生のお話」 6月30日

先生の高校時代からのお話を写真掲示をしながら話す。建築家になるための仕事をしていたこと、ある事件や出会いがきっかけで教師になる決心をしたこと、今でも建築に対する関心が高いこと、これからの夢などを思い出の品も見せながら紹介する。

2 「朝会 先生のお話」 11月4日

先生の小さい頃からの夢やなぜその夢をもったかなど、「夢」と題して話す。苦勞して悔しかったこと、努力を重ねたこと、夢が叶ったこと、今これからの夢などを時系列で板書しながら紹介する。

3 「放課後 先生のお話」 12月18日

集団下校までの時間を活用し、養護教諭が「こころ」についての話をする。「心ってどこにあると思う？」という投げかけから始まり、様々な「こころ」に気付くとともに、誰もがいろんな「こころ」をもっていること、「こころ」への対処法など、イラストを提示しながら話す。

4 「掲示物 リフレーミングってなに？」 1月～

廊下にリフレーミングについて掲示し、自分のことを振り返り、肯定的に考えることのよさを伝える。  
(養護教諭)



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 様々な方法で子どもたちに投げかけながら、先生の持ち味を生かす。

◎ 実践を振り返って

**成果** 身近な教師の経験を聞くことにより、将来の夢や希望を具体的にもったり、今後の自分の生き方について考えたりと、よい動機付けになった。また、普段は気付かない「こころ」のもち方にも関心をもつよい機会となった。

**課題** 児童の様子を保護者にも紹介し、啓発していく取り組みも考えられる。全学年での取組のため、発達段階に応じた補足が必要である。



実践名：「ペア学年の活動」

その他の教育活動：通年（全学年）

◎ 実施期日 通年

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 学校生活において、上学年と下学年がペア（1人対1人または1人対2人）になって活動し、楽しく過ごす。（かかわる）
- ・ 下学年は、上学年の姿を見て自分もこうなりたいという気持ちや意欲をもつ。（もとめる）
- ・ 上学年は、下学年の世話をすることで人のために役立とうとする気持ちをもつ。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 ペア学年の考え方

- ・ ペアになるのは1学年と6学年、2学年と5学年、3学年と4学年。
- ・ 教科、領域のほかに、スポーツテスト、交流（合同）給食、業前の読書タイム（読み聞かせ）、休み時間に一緒に遊ぶ等、様々な時間や場面で行う。

2 6年学活、1年音楽（4月）

- ・ 6年生が1年生に校歌を教える。

3 1年体育、6年体育（6月）

- ・ 1年生の初めてのプールでの学習の際に、6年生が1年生にプールでの約束やマナーを教えたり、1年生と一緒にプールに入ったりする。

4 3・4年音楽、行事（10月）

- ・ 郡音楽祭に向けて、3・4年生が心を一つにして練習・本番に取り組む。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 全学級担任がペア学年の活動に対して共通理解をし、多くの場面で一緒に活動することができるよう事前に話し合い、計画・実践を進める。



◎ 実践を振り返って

**成果** 授業時間だけでなく学校生活の多くの場でペア学年でのかかわりをもったところ、他学年同士が仲良くなり、休み時間等にも一緒に遊ぶ姿が見られた。下学年児童は、上学年にいろいろなことをしてもらうことで、感謝の気持ちや世話をしてくれるお兄さんお姉さんになりたいという気持ち、自分も上学年になったら下学年の世話をしあげたいという気持ちや意欲をもつようになった。上学年児童は、下学年に喜んでもらうことで、上学年としての責任感や人のために役立っているという実感をもつことができ、自己有用感をもつことができた。

**課題** 特に1学年と6学年の活動はとてもよいものだったが、3学年と4学年など年齢の近い学年同士での活動で、上記のような成果があまり見られなかった。意図的に交流の場を多く作り、その活動内容や働き掛けをするなどの工夫が必要である。



## 領域にかかわる実践事例

大崎市立志田小学校

### 実践名：牛乳配りをがんばろう

領域：生活単元（特別支援）

◎ 実施期日（期間） 平成26年5月～7月

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もどめる・はたす）

- ・ 協力学級の中での当番活動として、給食時の牛乳当番を友達の手を借りながら行う。  
(かかわる)
- ・ みんなのテーブルに牛乳とストローを一つずつ確認して確実に置くやり方を知る。  
(もどめる)
- ・ 1年生という集団の中で、自分の役割を認識させる。(はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 1年生の牛乳のケースを確認する。

- ・ 数字の1が1年生であることを覚え牛乳のケースを探す。見つけたら学年カードをかごに入れるという流れを覚える。

2 牛乳を配る。

- ・ ほかの児童の配膳が始まる前にみんなの机の上に牛乳とストローを順番に置く。

3 確認し、牛乳のケースを片づける。

- ・ 牛乳やストローが間違いなく置かれていることを確認してから牛乳のケースを片づける。



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ はじめは牛乳を配ってからストローを置かせていたが、置き忘れたり風で飛んだりしてしまうので、一緒に配ることとし、ストローの上に牛乳を置かせるようにした。

◎ 実践を振り返って

**成果** 繰り返し行ってきたことで、毎日の自分の仕事を理解し一人でも間違いなく行えるようになってきた。また、牛乳が余ったりすると友達が教えてくれるなど、かかわりが出てきた。

**課題** 気分が左右されるところもあり、身支度の準備に時間がかかって作業に遅れることもある。友達の配膳の方が早く、机にお盆が置かれた時の牛乳配りが、給食をひっくり返しそうで危ない。机の上に物があるときの配膳の仕方を教え、身に付けさせていかなければならない。

## 実践名：「みんなの作品展：鑑賞した作品を紹介しよう」

領域：生活単元（特別支援）

◎ 実施時期（期間） 平成26年9月18日、19日

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ みんなの作品展で他校の児童の作品に興味・関心をもって鑑賞する。（かかわる）
- ・ 鑑賞してきた作品を紹介し、質問に受け答えしながら自分の思いを伝える。（はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 「みんなの作品展」で友達作品を鑑賞し、写真に撮る。（9月18日）

- ・ 作ってみたい作品や紹介したい作品を写真に撮る。

2 スピーチ原稿を書く。（9月19日）

- ・ 撮ってきた写真の中から、紹介したい作品を選ぶ。
- ・ 紹介したいことを考えながら、スピーチ原稿を書く。

3 写真を見せながら、鑑賞してきた作品を紹介する。（9月19日）

- ・ 質問に受け答えしながら、鑑賞してきた作品について話す。



1 写真に撮る



2 スピーチ原稿を書く



3 作品を紹介する

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 鑑賞する視点を示すことで、興味・関心をもって作品を見ることができるようにした。
- ・ 児童の得意なICTを手段として、相手とのコミュニケーションを円滑に進められるようにした。
- ・ スピーチ原稿を書くことで、相手に伝えたいことを順序立てて話すことができるようにした。

◎ 実践を振り返って

**成果** ・ 自分が撮ってきた写真を見せながら紹介する活動を意図的に取り入れることで、友達と円滑なコミュニケーションを重ねながら、よりよい人間関係を築けるようになってきている。また、自己肯定感を高める経験にもなった。

**課題** ・ 自分が話すことに夢中になってしまい、質問に対して違った受け答えをする様子が見られたので、質問に対して答えることから会話が続くことを繰り返し経験させ、相手の話をよく聞く態度を育てていきたい。